

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 穴 戸 稔

下記のとおり、研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 穴戸 稔

経理責任者氏名 山田真一郎

期 間	令和5年7月5日～6日
用 務 先	東京都 早稲田大学大隈講堂
用 務	全国地方議会サミット オンライン参加
概要 研修の趣旨 テーマ 「変わる社会・デジタル・新しい民主主義」 ～激変する時代に対応する社会基盤としての議会 を実装する～ 基調講演「激変する時代に対応する議会を実装せよ」 北川 正恭 早稲田大学名誉教授・元三重県知事 特別講演「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」 河野 太郎 デジタル大臣（動画出演） セッション「デジタルで変わる自治体・政策」 セッション「オンラインとデジタルを活かす」 セッション「デジタルが拓くあたらしい民主主義」 講鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」 北川 正恭 早稲田大学名誉教授・元三重県知事 片山 善博 大正大学教授 元総務大臣 廣瀬 克哉 法政大学総長 セッション「政策議会の一般質問」 セッション「自治体監査と議選監査委員を活かす」 セッション「政策つよい議会をつくる」	

感想

- 北川先生は「地方議会から地方を変え、地方から国を変える。」
 - ・「ＴＴＰ（徹底的にパクリ）」
 - ・「先進議会のパクリから議会改革は始まる」と訴えられた。
- テーマに基づく「講演」「各地方議会での実践事例」「質疑」の流れで進行。次から次へと内容が変わり、時間的にも内容的にもハードな研修であった。
- 議会はより具体的な活動を地域住民とともに取り組まなければならない。
- 議員としての責任を果たすために、自己研鑽を続ける姿勢が重要であること再認識した

セッション「政策議会の一般質問」

演題「一般質問を議会の政策資源にするシクミ」土山希美枝氏 法政大学教授

- たかが一般質問 ・一般質問は議員の権利か？あるいは義務か？
 - ・一般質問は議員のパフォーマンス？ ⇒多少良くなっても議会は変わらない
 - ・地方自治法には一般質問のことは書いていない ⇒やってもやらなくても良い
- されど一般質問 ・何のために議員になるのか？
 - ・何のために議員でいるのか？ ・何かをしたくて議員になったのか？ ⇒議員になりたくてなった これでは× ⇒わが町を何とかしたい これが
- 議員自身の課題、町の課題に取り組む方法 ⇒これが一般質問である
- 一般質問とは、なにか？ ・議員が、町政にかかわるすべてのことを質問できる
- ・自由な意見の表明もでき執行部の公式見解を得ることができる
- 議員から見た一般質問 ・政策執行に監査・提案することで、自治体政策を間接的に制御
- 住民から見た一般質問 ・町の課題をめぐって、議会と行政が議論を通じて状況をあきらかにする ⇒争点が重要である
- 一般質問が機能していない要因は？
 - ・「質」の問題である。（もったいない）
 - ・歴史的な位置付けの問題である。（追従機構としての議会）
- 「いい一般質問が生かされない」のは？
 - ・議員の質問力は総合的な「政策形成力」である。
 - ・議員の政治家としての活動と見地の集約が一般質問である。
 - ・一般質問を議会の「政策資源」として生かしていない。 ⇒一般質問を議会（他の議員・委員会）と、住民の政策資源として共有すること

「別海町議会の一般質問検討会議」河西 博 氏 別海町議員

○一般質問検討会議の日程

- ・一般質問の作成
- ・一般質問通告（仮締切）・・・３週間前

- ・一般質問検討会議
- ・一般質問通告（締切）・・・2週間前
- ・議会運営委員会
- ・一般質問
- ・本会議終了後に反省会

○一般質問検討会議の効果

- ・質問のゴールや答弁者の答弁を予想したり、その後の質問をより考えるようになった
- ・自分の質問の論点を検討したり 磨いたりする意識がより高まった
- ・質問のための調査で、町民や関係者の声や意見の 聞き取りをより充実させるようになった
- ・委員会での検討や議論と連携するようになった
- ・他の議員の質問を意識したりするようになった

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 保実 治

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 穴戸 穂

経理責任者氏名 山田 真一郎

期 間	R5年7月5日(水)～ R5年7月6日(木)
用 務 先	全国地方議会サミット2023
用 務	変ある社会・デジタル・あたらしい民主主義へ激変する時代に対応する社会基盤としての議会を実装する。
概要及び所見 (目的、参考にするべき事項、提言、活用策等)	①概要 ・オンラインとデジタルを活かした議会について、 ②所見(7月5日研修) ・事例として、都城市のマイナンバーカード交付率9割での市民の暮らしが便利になるのに、 ・議会におけるAI活用は、必要である、 ・SNSを利用した選挙の実施、 ②所見(7月6日研修) ・地方分権は、法制化されたものの、今も国主導で変っていない、 ・一般質問において政策提案をするべきである、

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 山村恵美子

下記の通り,視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者指名 宍戸 稔

経理責任者氏名 山田 真一郎

期 間	令和5年 7月 5日 (水) ~ 令和5年 7月 6日 (木)
用 務 先	全国地方議会サミット 2023
用 務	「変わる社会・デジタル・あたらしい民主主義～激変する時代に対全応する社会基盤としての議会を実装する～」

概要及び所見

概要

進歩するオンラインとデジタルを活かした議会運営について。
制作議会の在り方について、事例を含めての提案・セッション。

所見（7月5日研修分）

DXで変わる行政事例。都城市におけるマイナンバーカード交付率九割越えの実現で市民の暮らしがより便利で安全なものに。

長野県の電子図書館事業で、全県協働の図書館運営。書籍のみならず、データの蓄積により、専門的な資料の提供等もよりスピーディーに紹介。

議会における **AI** 活用と、**ChatGPT** 等生成系 **AI** との向き合い方の議論。市民との関係の変化。より近く早く情報公開と広聴の広がりをも議会活動に活かす取組は必要である。

事例、インターネット投票実証実験。選挙後も選挙公報を有権者に届ける取組。**SNS** を有効に活用した選挙チャレンジの会の取組。多様な人材が議会に必要であり、従前の選挙では立候補者に限りがあり、言うなればもっとカジュアルな選挙により、立候補の裾野を広げることは必要であると思う。。しかし、議会活動、議員活動は様々な市民の声に応えるべきで、「自分はこれだけ叶えば良い！」との思い込みは払拭しなければならない。

世界から遅れをとる日本の **DX**。市民の生活がより便利にスピーディーになる手段についてのセッションがあり、正に過渡期にあると思う。しかし生成 **AI** との向き合い方については、誤変換や、自己の能力を超えた頭脳に翻弄されず活用できるか身長に向き合うべきと現時点では考える。

所見（7月6日分）

「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」

地方分権は進んでいない。国と地方の対等性、予算の配分時方法も相変わらず国主導。それぞれ地方に合った自治体運営が独立して行われるべきである。

人流についても、コロナ禍で一瞬地方への流れが起ころうとしたが、すぐに東京一極集中に戻った。特に若い女性が地上からいなくなる現象に拍車をかけた。東京もこのまま出生率が下がり続けると超高齢化社会を迎える。人口減少のスピードを緩め、現状維持に取り組むためには、女性の社会環境をストレスフリーに変えない限り、実現できない。

「制作議会の一般質問」

いかに一般質問を制作提言ができるまでの内容に作り上げていくかが課題。議員間での内容評価、常任委員会等で発展させるなど、単発で終わらない取り組みが必要である。

「自治体監査と議選監査委員を活かす」セッションでは、行政の指南役として自立した監査を遂行できる知識の構築が必要である。監査委員事務局との連携が深く必要である。

「政策強い議会をつくる」

政策決議提案とそのガイドラインを確立する。様々な方向から知識提供が必要で、特に制作常務など、大学との連携が不可欠。議会事務局員の人材育成も不可欠。ミッションロードマップを綿密につくり、政策提案実現に臨むことが重要である。

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 重信 好範

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 矢戸 統

経理責任者氏名 山田 貞一郎

期 間	令和5年7月5日(水)～令和5年7月6日(木)
用 務 先	早稲田大学 大隈講堂
用 務	全国地方議会サミット 2023
概要及び所見 (目的, 参考にするべき事項, 提言, 活用策等)	変わる社会・デジタル・めざす民主主義 激変する時代に対応する社会基盤としての 議会を構築する セミナーに研修を受けた。

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 山田 真一郎

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	宍戸 稔	経理責任者	山田 真一郎
視 察 議 員	山田 真一郎			
期 間	2023 年 7 月 5 日（水） ～ 2023 年 7 月 6 日（木）			
視 察 先	早稲田大学 大隈講堂			
視 察 用 務	全校地方サミット 2023			
視察先対応者	早稲田大学マニフェスト研究所			
概要及び所見	基調講演 ・ 激変する時代に対応する議会を実装せよ 北川 正恭 （早稲田大学名誉教授・元三重県知事） 特別講演 ・ デジタルで変わる社会・地方と議会への期待 河野 太郎 デジタル大臣 セッション 「デジタルで変わる自治体・政策」 1. マイナンバーカード効率9割超え 都城市のデジタル戦略 佐藤 泰格 （都城市総合政策部デジタル総括課） 2. ChatGPT 自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略 寒川 孝之 （横須賀市デジタル・ガバメント推進室）			

	3. 全国初 県内 77 市町村との協働電子図書館「デジとしょ信州 森 いづみ （県立長野図書館） 4. デジタル図書館とアクセシブルライブラリー 林 剛史 （株式会社メディアドゥ電子図書館推進センター） セッション 「デジタルが拓くあたらしい民主主義」 1. Society5.0 時代のあたらしい民主主義 中村 健 （早稲田大学マニフェスト研究所事務局長） 2. つくば市が取り組む選挙 DX インターネット投票実証実験より 五十嵐 立青 （つくば市長） 3. 選挙後（無投票選挙）も選挙公報を有権者へ届ける取組 山本 直也 （芽室町選挙管理委員会事務局記長） 4. 新しいスタイルの選挙運動を全国に！ 「選挙チェンジチャレンジの会」の取組 川久保 皆実 （つくば市議会議員） セッション 「地方分権の 20 年とこれからの 10 年を展望する」 北川 正恭 （早稲田大学名誉教授・元三重県知事） 片山 善博 （大正大学教授・元総務大臣） 廣瀬 克哉 （法政大学総長） セッション 「政策議会の一般質問」 土山 希美枝 （法政大学教授） 西原 浩 （別海町議会議員） 青野 敏 （鷹栖町議会議員） 片山 兵衛 （鷹栖町議会議員） セッション 「自治体監査と議選監査委員を活かす」 1. 政策サイクルと政策財務 江藤 俊昭 （大正大学教授）
--	--

2. 議選監査委員の活かし方 行政のかかりつけ医
川上 文浩 (可児市議会議員 議選監査委員)

3. 監査委員事務局との連携 自治体監査・議選監査の活かし方
谷川 宏 (鎌倉市監査委員事務局長)

4・議選監査委員を活かす
子籠 敏人 (あきる野市議会議員 議選監査委員)

セッション

「政策つよい議会をつくる」

1. 政策決議提案とガイドライン
菅原 由和 (奥州市議会議長)

2. 大学連携とミッションロードマップによる政策立案
清水 克士 (前大津市議会局長)

3. 議会における政策づくりと政策法務
津軽石 昭彦 (関東学院大学教授)

この度、特に注力したものは2点あり、ChatGPTと選挙のDX化についてでした。

ChatGPTについては、生成系AIがどのようなものかは分かっているのですが、実際に導入すると業務や個人のスキルにどの様に影響を及ぼすかは、まだまだ不安要素がありますが、貴重な実例を聞くことが出来ました。

選挙DXも、全国的に広まるのはまだ先と考えていましたが、この度の研修で聞いた限りでは、三次市でも急ぎ研究する必要があるそうです。